

科目 授業	在宅看護概論	単 位	1	時 間	15	時 期 履 修	2年次1学期
設 定 理 由	看護の対象は疾病の有無に関わらず地域で生活している人々である。病院での生活は一時的なものであり、疾病あるいは障害を持ちながら生活することの意義と、その生活を支える制度や看護を理解する必要がある。						
学 習 目 標	在宅での生活と対象となる人々とその家族を理解し、疾病や障害を持ちながらも住み慣れた環境での療養を支援する制度と在宅看護の在り方を学ぶ。 入院中から始まる退院調整や多職種連携における看護の役割や機能について学ぶ。						
授 業 内 容 (講 義 こ の 内 容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の概念と特徴 <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅看護の概念 2) 在宅療養者の支援から考える看護の特徴 2. 社会の変化と在宅療養者のニーズ <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者の生活状況 2) 在宅療養者と家族のニーズ 3) 在宅看護活動の場 3 療養者と家族を支える制度と支援システム <ol style="list-style-type: none"> 1) 在宅療養者を支援する施策 医療保険・介護保険制度・地域包括ケアシステム 2) 在宅看護をめぐる社会資源 3) ケアマネジメントの意義とプロセス 4. 退院調整と継続看護の実際 <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療機関と地域が連携する意義 2) 退院支援・調整のプロセス 3) 多機関・多職種連携と継続看護 5. 在宅療養者の家族看護 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家族の概念や家族の機能 2) 在宅療養者の家族の現状 3) 家族のアセスメントと支援 6. 訪問看護ステーションの管理・運営 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護の変遷と制度 2) 訪問看護ステーションの管理・運営 7. 訪問看護の役割と機能 <ol style="list-style-type: none"> 1) 訪問看護師の役割・機能の実際を 2) 訪問看護で活用される概念:QOL、自己決定支援、アドボカシー 8. 試験 					担 当 者 (時 間)	
						専 任 教 員 (13)	看 護 師 (2)
面 評	筆記試験						
テ キ ス ト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 国民衛生の動向						
備 考							

授業科目	在宅看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	1年次2学期
設定理由	在宅療養者の日常生活の支援は、療養者と家族が生活者という視点で捉え、主体は療養者にあることを理解することが重要である。在宅看護技術では、家庭での生活・価値観を尊重した看護を提供するための人間関係構築の技術、基本技術、日常生活援助技術、医療処置に伴う援助技術が安全で確実に実施できるよう、知識・技術を習得する。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護過程の展開や他職種との連携など、在宅看護を展開していく際のポイントを理解する。 2. 在宅で求められる看護技術、医療技術とそれに伴う看護を理解する。 						
授業内容(講義)の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護におけるコミュニケーションの基本 訪問時の心構えとマナー、在宅における面接の技術 2. 在宅看護におけるフィジカルアセスメントと訪問時の観察の視点 3. 演習：療養者宅への訪問と訪問時の観察（演習） 4. 生活の場における日常生活援助 5. 医療管理を必要とする人の看護 6. 訪問看護におけるリスクマネジメント・災害対応 7. 在宅における看護過程の考え方と在宅看護の目指すところ 8. 事例展開 アセスメント・関連図による対象の理解 9. 事例展開 療養者の希望を支える看護計画 10. 事例展開 訪問看護による看護の実践 11. 事例展開 訪問看護による看護の実践 12. 演習：事例の日常生活援助および医療管理を必要とする人の看護 13. 演習：事例の日常生活援助および医療管理を必要とする人の看護 14. 演習：事例の日常生活援助および医療管理を必要とする人の看護 15. まとめ/試験 					担当者(時間)	専任教員(30)
評価	筆記試験 レポート課題						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院) 写真でわかる訪問看護 (インターメディカ)						
備考	在宅実習室は、療養者のご自宅の居室と想定して使用すること。 演習は複数教員で担当する。						

授業科目	在宅看護実践方法論	単位	2	時間	30	履修時期	2年次 2学期
設定理由	在宅療養場面における特徴的な事例を通して、人間関係展開のプロセス、問題解決のプロセスを学ぶ。						
学習目標	障害を持ちながら生活する在宅療養者の看護の実際と看護過程の展開を学ぶ。						
授業内容 (講義)との内容	1. 在宅療養、訪問看護の概要を理解する 2. 事例展開①リハビリり病院退院計画 データベースの整理、情報整理からアセスメントまで 3. 事例展開②リハビリり病院の退院計画、問題点抽出、計画立案 4. 事例展開①終末期の療養者に対する在宅看護 事例からがん患者の訪問看護を理解する 5. 事例展開②終末期の療養者に対する在宅看護、看護展開 6. 試験(1～5) 7. 在宅を訪問するということ 8. 認知症とは 9. 事例展開①認知症の療養者に対する在宅看護 10. 事例展開②独居の療養者に対する在宅看護 11. 試験(7～10) 12. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の病態と経過 13. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の悪化予防と症状に応じた日常生活援助 14. HOTの導入と退院後の生活指導と退院支援 15. 慢性閉塞性肺疾患(COPD)患者への訪問看護の役割 16. 事例展開 慢性閉塞性肺疾患(COPD)によりHOTを利用している療養者に対する在宅看護 17. 試験(12～16)					担当者(時間)	
						看護師(10)	
						看護師(9)	
						看護師(11)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 (医学書院)						
備考							

授業科目	在宅看護論実習	単位	2	時間	90	履修時期	3年次 1・2学期
設定理由	看護の対象は疾病の有無に関わらず地域で生活している人々であり、病院での生活は一時的なものである。体力の低下や疾病あるいは障害を持ちながら地域（在宅）で生活をしている人々を対象に、予防から療養生活が支えられている現状を知り、多職種と協同して看護師の役割を果たすことが求められている。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅の対象の特性を理解する。 2. 地域で生活する人及びその家族の生活を支える看護を理解する。 3. 地域包括ケアシステムの理解を深め、保健医療福祉チームの中での看護の役割を考える。 4. 生活の場を拠点として行う看護のための基本姿勢・態度を身につける。 						
授業内容（講義）との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 以下の3か所で実習を行い、訪問への同行や援助、事業への参加を通して学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 地域包括支援センター 2) 米子市・境港市の保健センター 3) 訪問看護ステーション 						担当者（時間）
							専任教員
評価	<p>実習の取り組み姿勢</p> <p>評価表に基づき、実習目標への到達度、実習状況（出席状況・実習態度）、実習記録物の提出等について総合的に評価する。</p>						
テキスト							
備考	詳細については実習要項を参照してください						

授業科目	看護管理	単位	1	時間	15	履修時期	3年次 1学期
設定理由	看護管理とは、管理者だけでなく、看護実践者にも必要な知識と技術であることを理解する。看護管理が、チームや組織、システムを動かしていく活動であることや、看護をしくみとしてとらえ、どのようにすればよりよい看護が提供できるかなどについて学ぶ。						
学習目標	看護職者として、必要な管理や、看護実践につなげるための看護マネジメントについての知識を習得する						
授業内容 (講義)との内容)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後の医療とヘルスケアシステムについて 2. 看護とマネジメント 3. 看護ケアのマネジメント 4. 看護サービスのマネジメント 5. 看護を取り巻く諸制度、看護職のキャリアマネジメント 6. マネジメントに必要な知識と技術 7. 看護管理の今後の課題 8. 試験 					担当者(時間)	
						非常勤講師(2)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①(医学書院)						
備考							

授業科目	医療安全	単位	1	時間	15	履修時期	3年次 1学期
設定理由	医療事故というかたちで患者に実害を及ぼすことのないような仕組みを学び、医療事故の防止対策と、医療施設全体の組織的な自己防止対策の二つの対策について学ぶ。医療事故の発生を未然に防ぎ、患者が安心して安全な医療を受けられる環境について学ぶ。						
学習目標	医療の質と安全を確保する為に、具体的に医療現場で行われる必要な業務を把握し、医療事故を未然に防ぐ知識と心構えを習得する						
授業内容 (講義)の内容	1. 医療事故について 2. 医療事故について (シリンジ・輸液ポンプ) 3. 輸血業務、内服薬業務、経管栄養 (注入) 業務 4. チューブ管理と事故防止、業務領域を超えて共通する間違いと発生要因 5. 療養上の世話の事故防止 6. 医療安全とコミュニケーション① 7. 医療安全とコミュニケーション② 8. 試験					担当者 (時間) 看護師 (15)	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 医療安全 (医学書院)						
備考							

授業科目	災害看護	単位	1	時間	15	履修時期	3年次 2学期
設定理由	災害看護教育の柱は「命と生活を守る」です。物資も人手もない中で、被災者と向き合って生活を整え、自立を促すのが目的となる。急性期の対応や、災害看護として生活の基本を整えながらの長期的な支援の仕方を学ぶ。さらにトリアージや心のケアなど災害時に看護が果たす役割と災害時看護支援活動について学ぶ。合わせて国際看護の視点を学ぶ。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害が人々の健康に及ぼす影響と障害について学習する 2. 災害時に看護が果たす役割、災害時看護支援活動について学習する 3. 組織的、制度的災害対策について学習する 4. 災害の種類、特殊性と発生からの時期に応じた看護援助の実際を知る 5. 国際看護について学ぶ 						
授業内容 (講義)との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害とは 2. 災害看護とは 3. 災害と健康障害とは 4. 感染防御とは 5. 国際看護、国際機関、グループ発表準備 6. 国際看護、国際機関、グループ発表 7. トリアージ（演習） 8. 試験 <p>※演習に関しては複数講師で対応する</p>					担当者（時間） 看護師（15）	
評価	筆記試験						
テキスト	系統看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学（医学書院）						
備考							

授業科目	統合看護技術	単位	1	時間	30	履修時期	3年次 1学期
設定理由	自らの体験を通して身につけてきた看護の知識・技術・態度を統合、活用する力を養う。看護の体験と知識を統合し言語化、行動化しながら、看護技術の根拠、安全性・安楽性を追究し、対象にとってより良いものにするための発想力、思考力を養う。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術経験のリフレクションを通して自己の課題を明確にする 2. 科学的根拠に基づいた看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。 3. 複数受け持ち時の時間管理と優先順位、報告の仕方が解り、チームの一員として求められる行動を理解できる 						
授業内容（講義）の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の科学的根拠とケアリング 2. 看護技術場面のリフレクション 看護技術の構成要素と相互関係の側面からの評価 3. 看護技術の研究知見を実践に活かすための方法① 4. 看護技術の研究知見を実践に活かすための方法② 5. 自己の看護技術観 6. 複数受け持ち時の時間配分と優先順位の考え方 事例に基づく多床室患者の看護 行動計画案の作成 7. シミュレーション 多床室患者への対応 ① 8. シミュレーション 多床室患者への対応 ② 9. 看護チームの一員として期待される役割と自己の課題 10. 臨床推論の基本と方法 11. 事例についてフィジカルアセスメントの知識と様々な症状と病態の学習を踏まえた検討① 12. 事例についてフィジカルアセスメントの知識と様々な症状と病態の学習を踏まえた検討② 13. 事例についてフィジカルアセスメントの知識と様々な症状と病態の学習を踏まえた検討③ 14. 自分たちの推論に基づく必要な看護のプレゼンテーション① 15. 自分たちの推論に基づく必要な看護のプレゼンテーション②/まとめ 					担当者（時間）	
						専任教員（30）	
評価	技術試験、前演習に基づく記録、演習への参加状況により総合的に評価します。講義用にファイルを作成して綴じて、最終日に提出していただきます。						
テキスト	系統別看護学講座 基礎看護学 看護学概論、基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ 看護がみえる①②、フィジカルアセスメントがみえる ※その他、必要な教材は適宜準備してください。						
備考	6～9については、3グループに分かれて一日の集中講義・演習で実施します。						

授業科目	統合実習 I (臨床実践技術)	単位	1	時間	45	履修時期	3年次 1・2学期
設定理由	自らのこれまでの学習体験を通して身につけてきた看護の知識・技術・態度を統合する。実際の対象に必要な看護技術の根拠、安全性と安楽性を追究して、自身の技術を実施可能な状態に近づけながら責任感を持って実施、評価を行う。この過程を通して、自己の看護観や技術観をより高めていくことの重要性を理解することを目的とする。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の生活の実際を把握する。 2. 対象の健康状況を把握する。 3. 対象の生活における看護の実際を理解する。 4. 患者が、より良い生活を送れるように支援する方法を学ぶ。 5. 治療に結びつく看護技術を安全・安楽に配慮しながら実施する。 						
授業内容 (講義)との内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 神経筋難病の患者を受け持ち、看護師が立案した看護計画のもとに看護技術を行えるよう、指導者の監督指導の基、援助計画を立てて練習し、患者の了解を得て実施を行う。 2. 患者とのかかわりや看護技術の評価をカンファレンスにて振り返り、グループで共有して実習での学びを深める。 					担当者 (時間)	
						専任教員	
評価	受け持ち患者に対する看護実践、実習の取り組み姿勢 評価表に従い、実習目標への到達度、実習状況 (出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。						
テキスト							
備考	詳細については実習要項を参照してください						

授業科目	統合実習Ⅱ (看護マネジメント)	単位	1	時間	45	履修時期	3年次 1・2学期
設定理由	専門分野の各看護学や実習で、得てきた知識・技術等をふまえ、臨床での看護の実務に即した実習を行うことにより、看護師の役割・責任のイメージが広がる。また、優先順位の判断や時間管理、医療・看護チームの一員としての役割や連携の実際を学ぶことで、卒業後の実践に向けた目標を明確にできる。						
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 複数患者の援助の優先順位の判断と時間管理ができる 2. リーダーとメンバーの役割と業務調整、他部門との連携を理解する 3. 夜間の看護管理と夜間の患者の状態を理解する 4. 病棟の運営、管理の実際を理解する 5. 実習に対して主体的に取り組む姿勢を持ち、卒業後の実践に向けた目標を明確にできる 						
授業内容(講義)との内容	<p>以下の実習を行い、目標に沿ってリフレクションや課題カンファレンスを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病棟における看護管理 2. リーダー実習 3. メンバー実習 4. 複数受け持ち実習 5. 夜間実習 					担当者(時間)	専任教員
評価	<p>実習の取り組み姿勢</p> <p>評価表に基づき、実習目標への到達度、実習状況(出席状況・実習態度)、実習記録物の提出等について総合的に評価する。</p>						
テキスト							
備考	詳細については実習要項を参照してください						